

市町村指定文化財取材票 <表>

取材日	2023年	5月	13日	(記入者) 灰藤健一	
取材参加者	秋山	大谷	神野	灰藤	東辻
取材対象先	平群町：金勝寺の薬師如来坐像 薬師三尊像				

所在地	生駒郡平群町榎原53				
所有者(取材対応者)名	金勝寺(金勝寺****住職)(個人情報守秘)		連絡先：0745-45-0110		
	PCアドレス				
取材申込	申込先・行政名など：				
市町村指定文化財	彫刻	2 軀	薬師如来坐像、薬師三尊像2軀とも1978(昭和53)年3月15日指定		
	建造物	棟			
文化財指定理由	天平年間の松永久秀の焼討ちにあい諸堂を焼失しているが、像は兵火を避けて伝えられ、質の高い精巧な造りの像として祀っている。平群の里の祖先が生き抜いた息づきを感じずる遺品で、郷土の文化財を大切にしその価値を再確認するため、指定された。				

文化財の状況

	設備・対策・点検・通知方法など	記入者の感想
防火対策	消火器、消防ポンプの備えはあり。	ご住職の御考えにより、現状は変えず。
	被害の有無、対策など	記入者の感想
獣害対策	特に対策はしていない。薬如来坐像の台座が白アリ被害にあい、10年ほど前に交換。アライグマは偶に見かけることがある。	ご住職の御考えにより、現状変えず。
保存～継承へ苦労と今後の課題と対策	薬師如来坐像の顔の部分の漆が剥がれ、残ったままの状態であり、特に修復はされていない。元興寺文化財研究所への修復依頼も検討されたようだが、今は考えていない。ご住職の御考えは将来の技術向上に期待し、現状維持が中心。本堂は江戸時代建立(1665年)の仮堂のため、地震対策として5年ほど前に建替えを計画したが、費用面のことやコロナ禍が重なりそのままとなっている。1559年松永久秀の焼打ち、明治時代には二度の放火にも遭遇。危険性があり、引き続き建替え検討の意向はある。	

取材を終えて感じた文化財保護状況と今後の課題(修復、維持、管理、環境など)

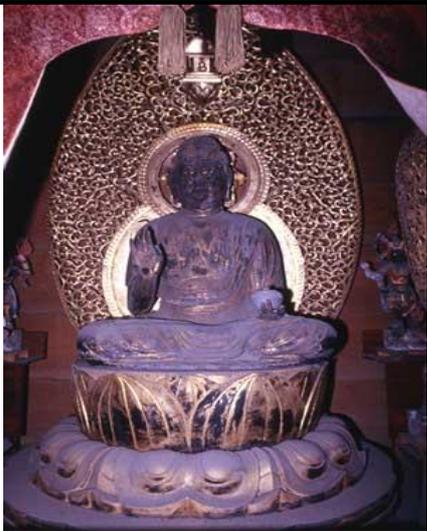
ご住職は代々引き継がれてきたようで、お話を聞いていても、お寺や御仏に対する愛情、保存継承への思いは誰よりもお持ちで、部外者がどうこう言うことではないと考える。ただ、念願の本堂の建て替えについては、周辺の関係者ならびに役所関係者の方々のご協力を頂き前進することを期待します。

市町村指定取材票<裏>

取材日	2023年	5月	13日	(記入者) 灰藤健一	
取材参加者	秋山	大谷	神野	灰藤	東辻
取材対象先	平群町：金勝寺の薬師如来坐像 薬師三尊像				

<以下の仏像写真は、平群町教育委員会より掲載許可済み> <堂外写真は撮影許可済み>

文化財指定名：薬師如来坐像、薬師三尊像

文化財（薬師如来坐像）	文化財（薬師三尊像）
	
金勝寺本堂（上記二点の文化財が安置されている）	文化財の由緒説明板



文化財の由緒などを記入

寺伝によれば、本尊の薬師如来坐像は、開祖である行基菩薩が、この地に密生していた楓一霊木を一刀三礼しつつ創ったものといわれ、木彫、寄木造像高1.5m、玉眼で高い蓮弁の台座に乗り、全身に漆箔が施されている。脇尊の三尊像も木造で、中尊は18.9cm本身は一木で、頭部は挿首、右手は施無畏印、左手は与願印。脇侍の日光・月光像は18cmと小像であるが、光背、台座は当初（室町時代）のもので精巧な造りである。<尚、上記文化財二点の画像は、平群町教育委員会総務課様からのご提供、原本は金勝寺様の所蔵による。>

所有社寺や地域（廃寺等）の歴史や特徴を記入

行基が746年に開いたとされる。寺のすぐ前の竜田川の淵に住む竜神を祀る信仰があったようで、竜神(青鯨竜王)が行基を迎えたという寺の伝承がある。36の塔頭を擁する大寺院として栄えるも、1559年に松永久秀の焼討ちで本堂はじめ諸堂は焼失、寺院も没収。1665年に再建、明治時代に二度の放火に遭うも仮堂として現在に至る。境内には多くの石造物があり十三重石塔や、線刻不動明王像や地藏菩薩像など、室町から江戸時代にかけて刻まれた14軀の磨崖仏も、町指定の文化財に指定されている。